

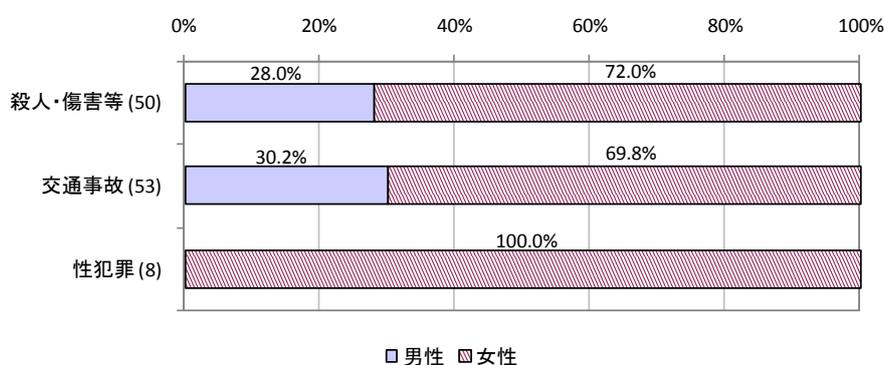
2-2-1 回答者基本属性

下記に本年度調査の回答者基本属性を示す。3年間の継続調査であるパネル調査では、初年度（平成19年度）調査時点でのみ基本属性を質問している。そのため、下記は本年度調査回答者の平成19年度の回答状況を集計した結果である。

(1) 性別

性別では、3類型すべてにおいて、女性が多い。殺人・傷害等では72%、交通事故による被害では70%、性犯罪による被害では100%（8名中全員）が女性となっている。

図表 2-2 被害類型×性別

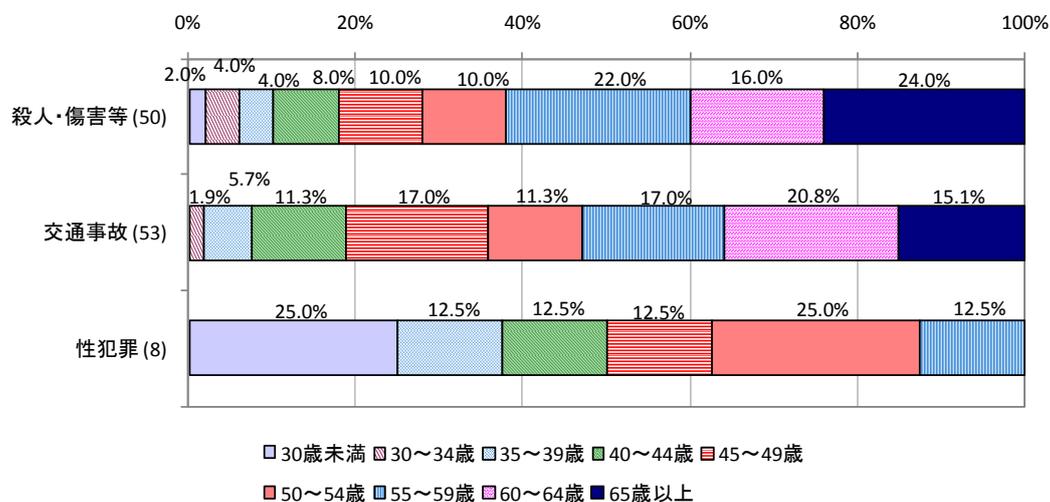


※無回答を除く。以下同様。

(2) 年代

年代別では、殺人・傷害等、交通事故では半数以上が55歳以上である。性犯罪では、4割弱が40歳未満の回答である。

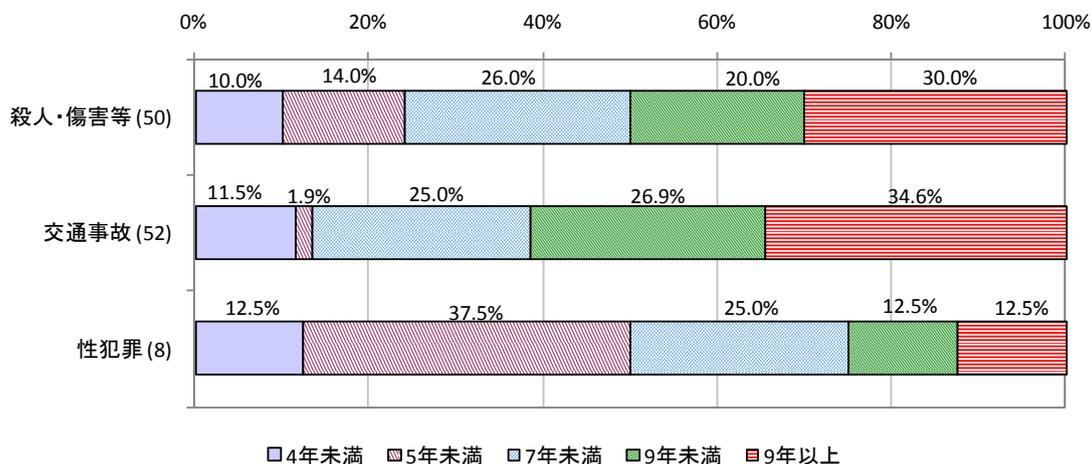
図表 2-3 被害類型×年代



(3)被害からの経過年数

被害からの経過年数では、性犯罪での3年未満とする回答が半数を占める。

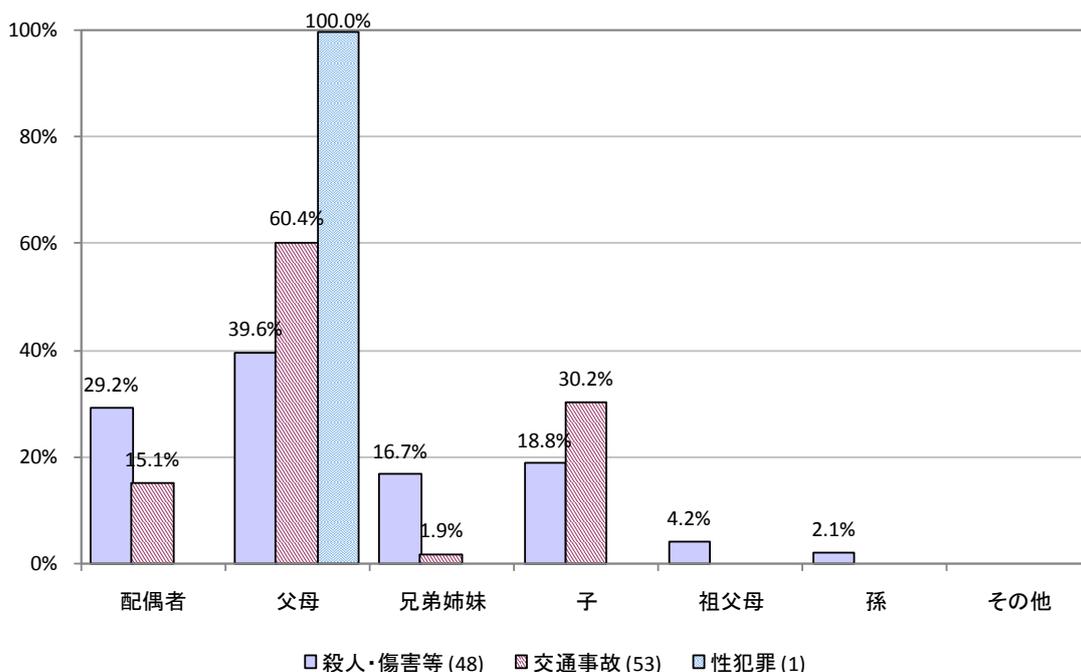
図表 2-4 被害類型別×被害からの経過年数



(4)被害者との関係【ベース：被害者の家族・遺族】

被害者の家族又は遺族に被害者本人との関係を質問したところ、どの類型においても「父母」が最も多く、殺人・傷害等、交通事故による被害で、それぞれ40%、60%となっている。

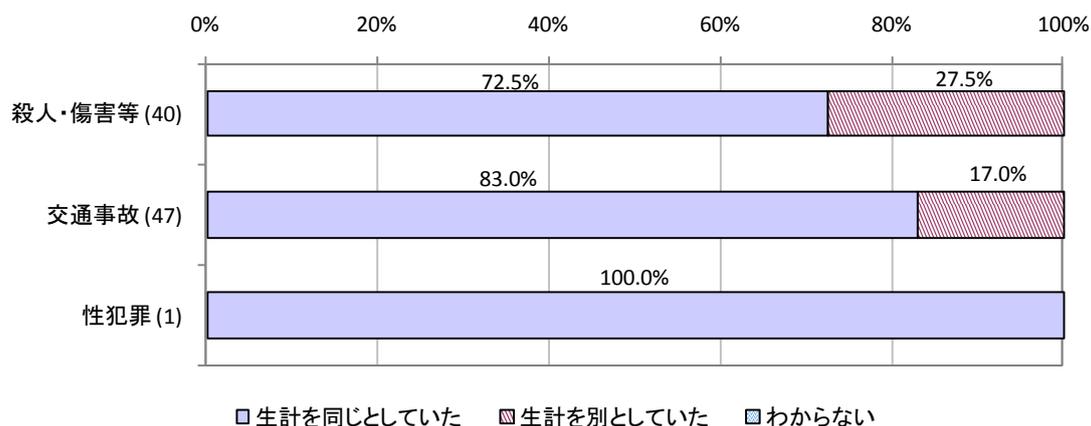
図表 2-5 被害類型×被害者との関係



(5)平成19年度調査時点での被害者との生計関係【ベース：被害者の家族】

事件当時の被害者との生計関係について被害者の遺族に質問したところ、殺人・傷害等では73%、交通事故では83%、性犯罪では100%が事件当時に被害者と生計関係があったとしている。

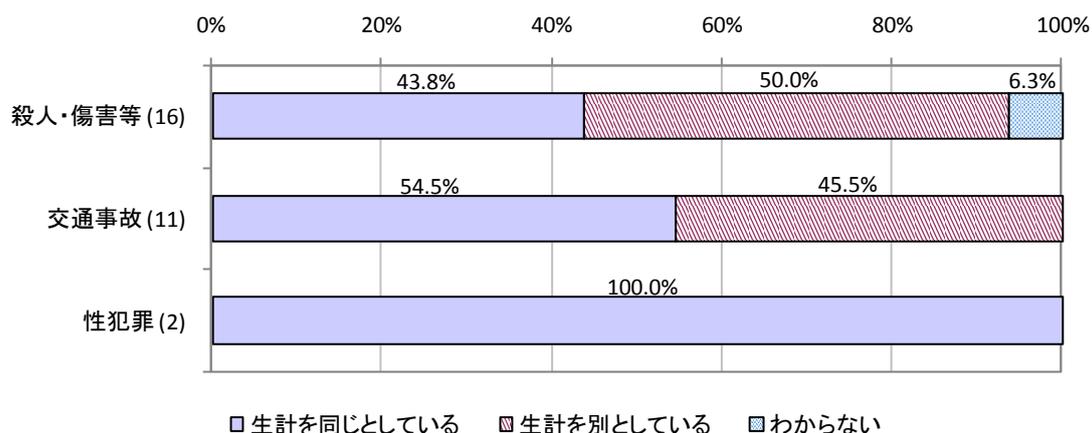
図表 2-6 被害類型×平成19年度調査時点での被害者との生計関係



(6)現在の被害者との生計関係【ベース：被害者の遺族】

平成19年度調査時点での被害者との生計関係について被害者の遺族に質問したところ、殺人・傷害等では44%、交通事故による被害では55%が被害者と生計関係があったとしている。

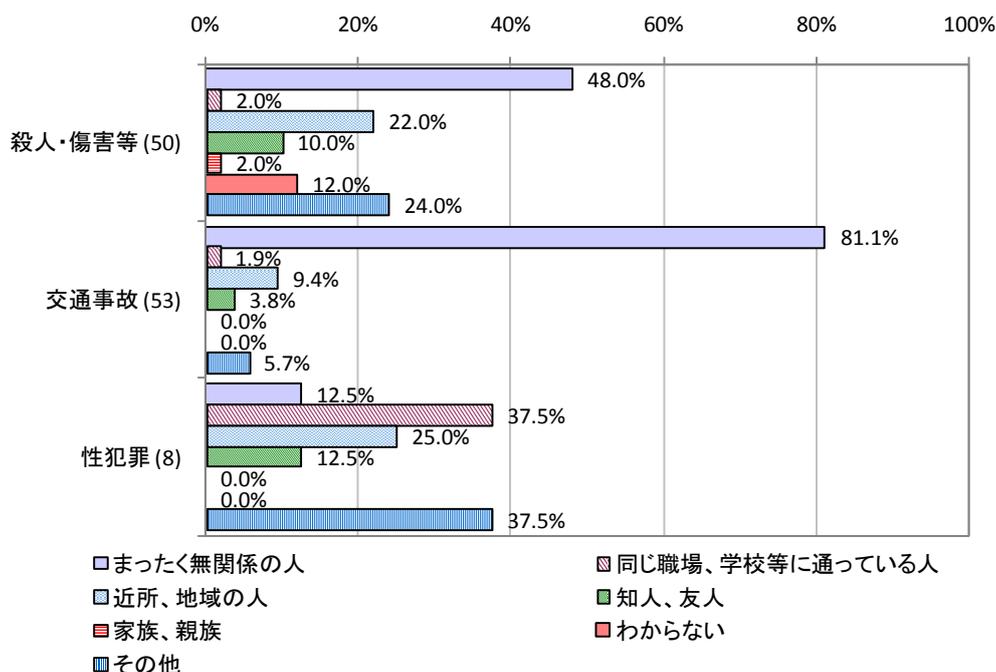
図表 2-7 被害類型×現在の被害者との生計関係



(7)加害者と被害者の関係（複数回答）

加害者と被害者との関係について、殺人・傷害等では「まったくの無関係」とした人が48%、交通事故による被害では81%と最も多く、性犯罪による被害では「同じ職場・学校等に通っている人」が38%と最も多い結果となっている。

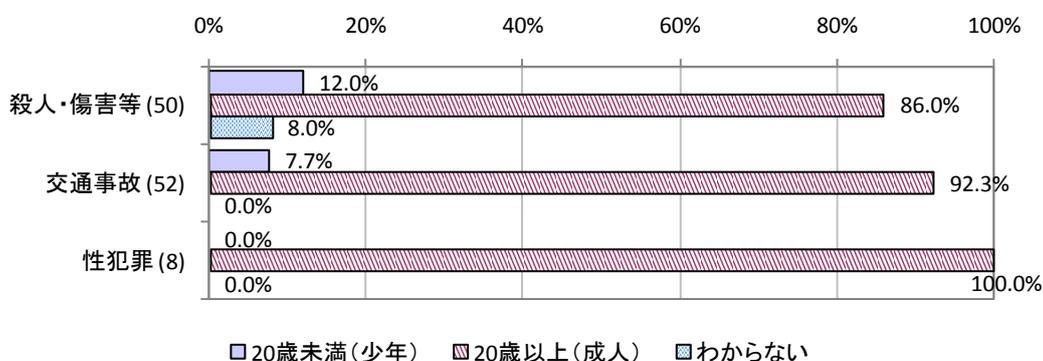
図表 2-8 被害類型×加害者と被害者の関係



(8)加害者の事件当時の年齢

加害者の事件当時の年齢では、いずれの類型でも、回答者の80%以上が「20歳以上（成人）」としている。

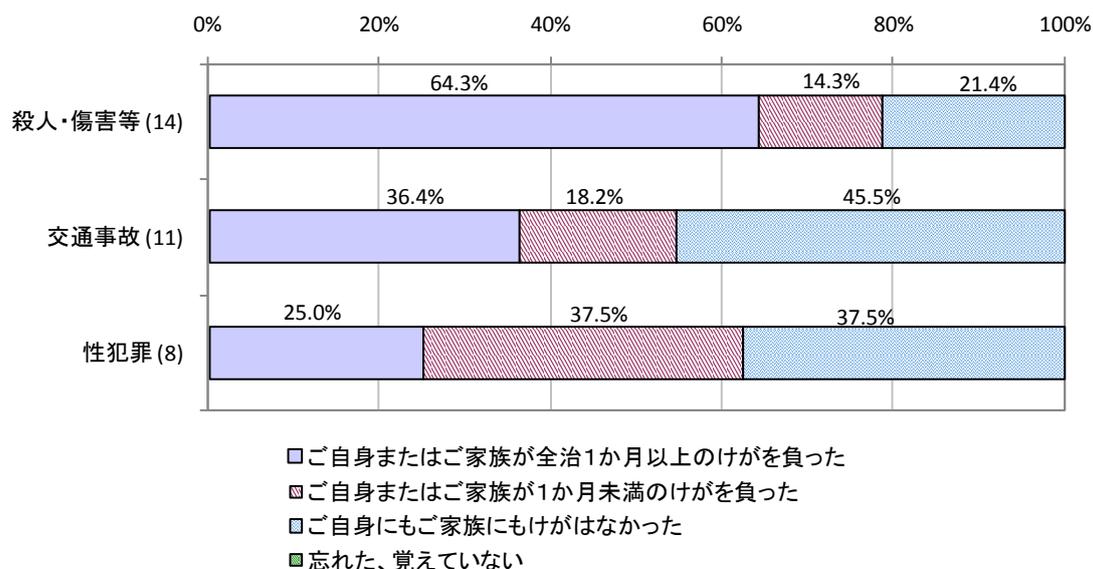
図表 2-9 被害類型×加害者の事件当時の年齢（複数回答）



(9)被害者本人又は家族の事件によるけがの有無【ベース：被害者本人・被害者の家族】

被害者本人と家族に対して、事件によるけがの有無を質問したところ、殺人・傷害等では自身又は家族が1か月以上の傷害を負ったとの回答が64%、交通事故では36%、性犯罪では25%となっている。

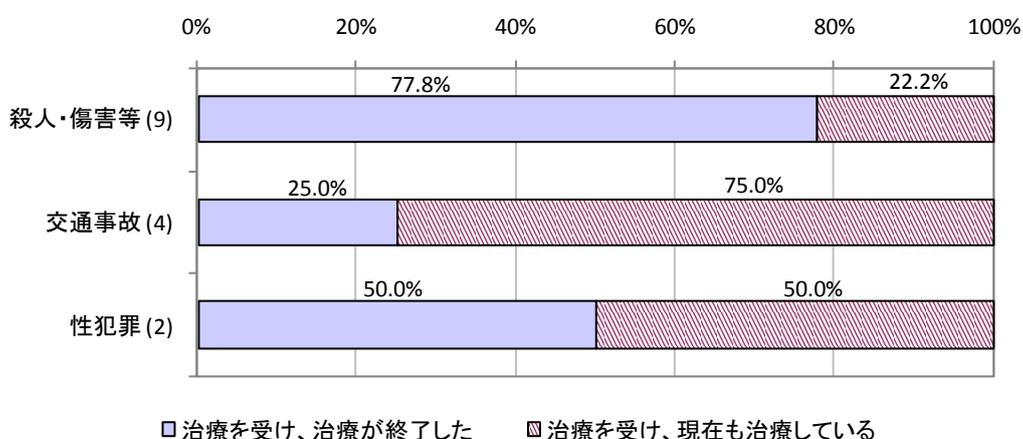
図表 2-10 被害類型×自身又は家族の事件によるけがの有無



(10)けがの治療状況【ベース：自身又は家族が1か月以上のけがを負った人】

けがの治療状況について、自身又は家族が1か月以上のけがを負った人に質問したところ、殺人・傷害等の77%、交通事故の25%、性犯罪の50%が「治療を受け、治療が終了した」としている。

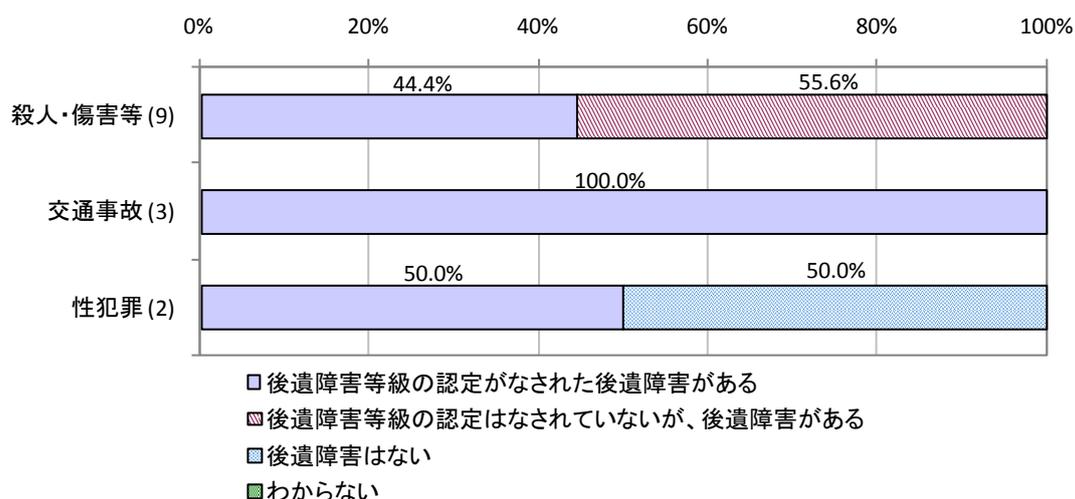
図表 2-11 被害類型×けがの治療状況



(1 1)けがによる後遺障害の有無【ベース：けがの治療が終わった人】

けがの治療が終わった人のうち、後遺障害等級認定を受けている被害者等は、殺人・傷害等で44%、交通事故による被害で100%である。

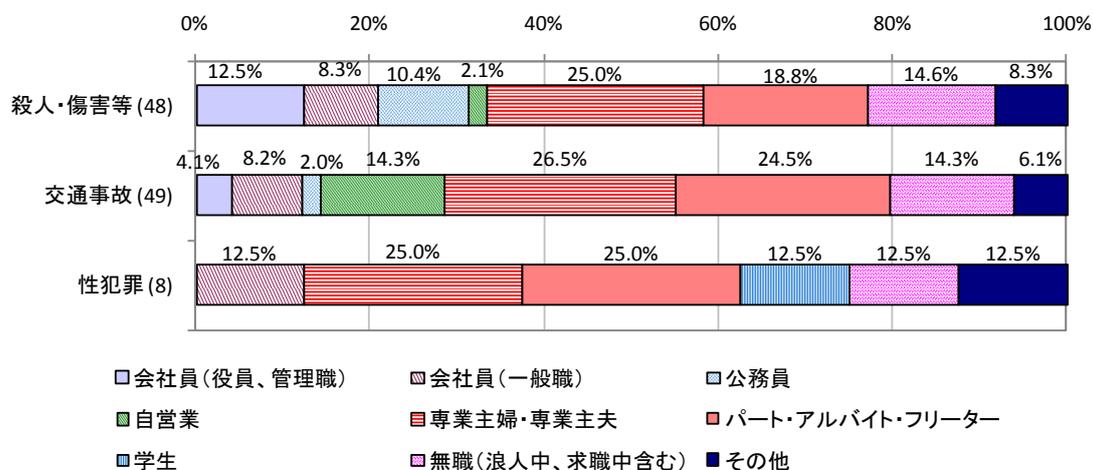
図表 2-12 被害類型×けがによる後遺障害の有無



(1 2)職業

職業については、専業主婦・専業主夫が、殺人・傷害等では25%、交通事故による被害では27%と最も多い。性犯罪による被害では、専業主婦・専業主夫とパート・アルバイト・フリーターで25%と最も多い。

図表 2-13 被害類型×職業

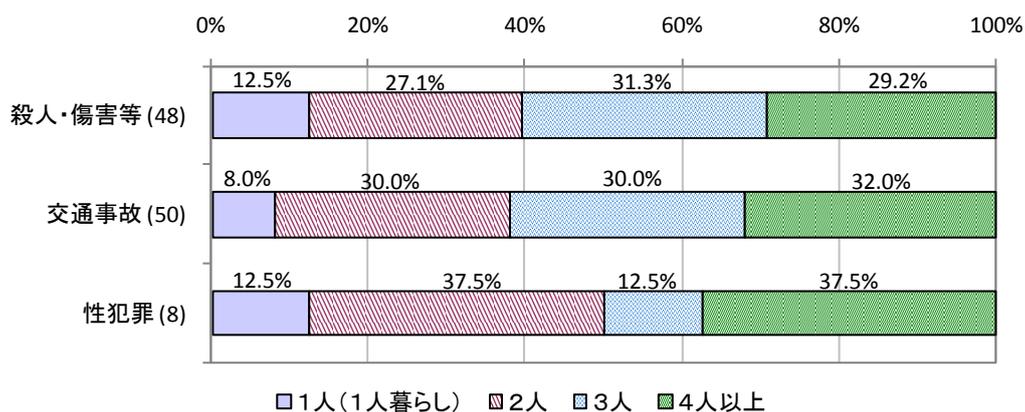


第2章 パネル調査結果

(1 3)同居家族の人数

同居人の人数については、「3人」が、殺人・傷害等で31%と最も多くなっている。交通事故による被害では、「4人以上」が32%と最も多く、性犯罪では「2人」と「4人以上」がともに37.5%と最も多くなっている。

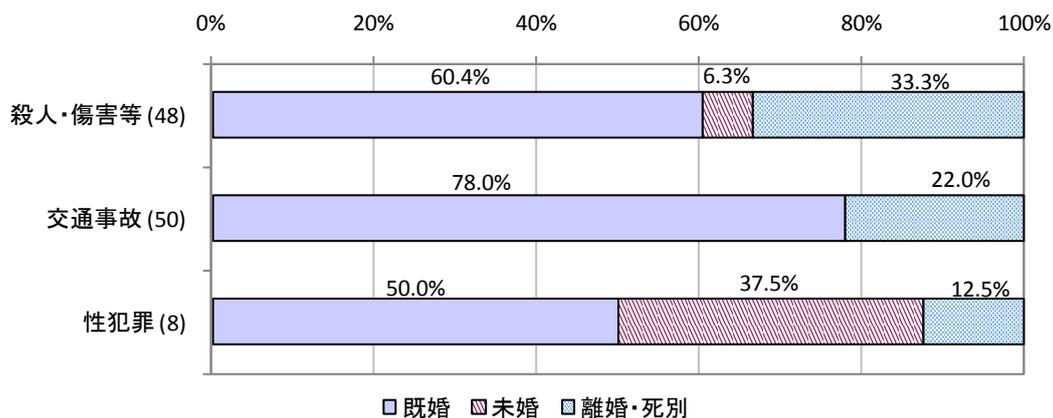
図表 2-14 被害類型×同居人の人数



(1 4)現在の婚姻状況

現在の婚姻状況については、既婚が、殺人・傷害等で60%、交通事故による被害で78%、性犯罪で50%を占める。

図表 2-15 被害類型×現在の婚姻状況

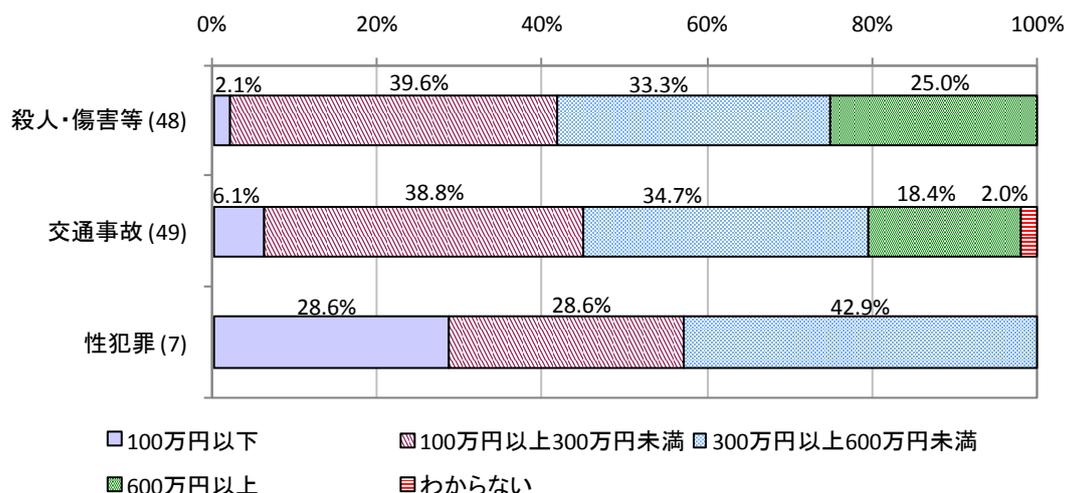


第2章 パネル調査結果

(15)現在の年収（家族と同居している場合は世帯年収）

現在の年収については、殺人・傷害等（40%）及び交通事故による被害（39%）で、「100万円以上300万円未満」が最も多い。性犯罪による被害では、43%が「300万円以上600万円未満」としている。

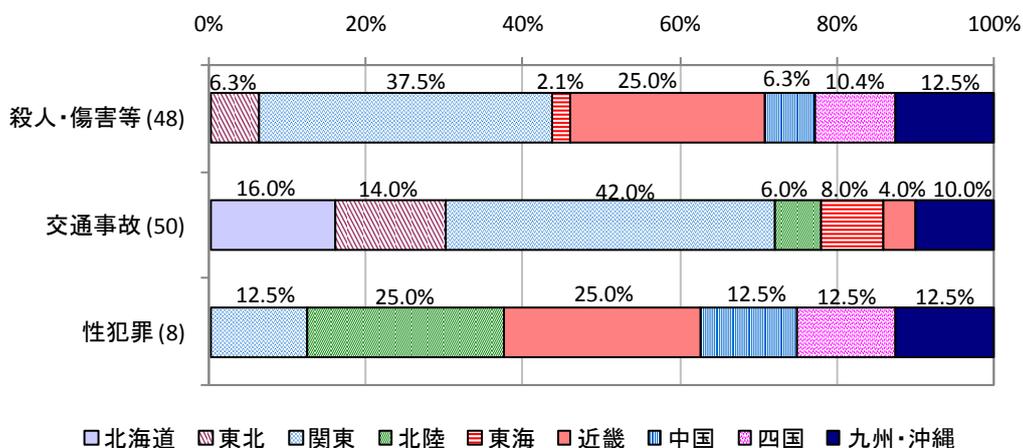
図表 2-16 被害類型×現在の収入



(16)現在の居住地区

現在の居住地区については、殺人・傷害等で関東が38%、交通事故による被害でも関東が42%を占める。

図表 2-17 被害類型×現在の居住地区



(17)現在の居住地の都市規模

現在の居住地の都市規模について、殺人・傷害等では、「大都市（政令指定都市）」（38%）と「中都市（人口10万人以上）」（40%）が比較的多い。交通事故と性犯罪では、「中都市（人口10万人以上）」が比較的多い割合となっている。

図表 2-18 被害類型×現在の居住地区の都市規模

